

泌尿紀要
Acta Urol. Jpn.

Vol. 30, No. 7 ACTA UROLOGICA JAPONICA July 1984

泌尿器科紀要

第30巻 第7号 1984年7月

ヒト膀胱移行上皮の構築的微細構造	高山 秀則・小西 平	857
泌尿生殖器疾患(とくに尿路性器癌)と血清 Tissue Polypeptide Antigen (TPA)	松島 正浩・ほか	869
泌尿器科領域における NAG: ことに水腎症における意義について	上田 公介・ほか	877
経皮的腎瘻造設術の経験	西野 昭夫・ほか	883
泌尿器科の手術におけるレーザーロッドメスの使用経験	和志田裕人・ほか	891
Epstein-Barr ウイルス関連早期抗原発現誘導系による 尿中膀胱発癌プロモーター検出の試み	藤田 潤・吉田 修	897
血清 α -fetoprotein 値の上昇を伴った腎癌の1例	西村 泰司・ほか	903
副腎嚢腫の1例	諸角 誠人・ほか	907
膀胱全摘術後の膀胱癌骨盤内再発に対する手術療法の検討	高土 宗久・ほか	913
膀胱全摘・回腸導管造設時に心筋梗塞を起こし救命しえた1例	泉 武寛・ほか	919
巨大前立腺癌の1治験例	藤本 佳則・ほか	925
前立腺の Hemangiopericytoma	石黒 幸一・ほか	931
原発性女子尿道腫瘍	坂下 茂夫・ほか	935
会陰部睾丸転位の2例	内島 豊・ほか	941
両側特発性睾丸梗塞症の1例	原 信二・ほか	947
第33回 泌尿器科中部連合総会		
特別講演		
抗生物質の腎分画内濃度	藤田 公生	953
シンポジウム		
副甲状腺機能亢進症の外科 司会のことば	大川 順正	957
副甲状腺機能亢進症の外科 臨床診断の問題	小出 卓生	959
副甲状腺機能亢進症の外科 部位診断の問題	岡田 裕作・ほか	963
副甲状腺機能亢進症の外科 手術手技の問題	新家 俊明	969
原発性副甲状腺機能亢進症と尿路結石	田島 惇・ほか	975
内分泌的環境からみた原発性 副甲状腺機能亢進症の特性	郡 健二郎	981
続発性上皮小体機能亢進症に対する 上皮小体全摘除術および自家移植	鈴木 孝治・ほか	985
腎性上皮小体機能亢進症の診断と外科治療	富永 芳博・ほか	989
まとめ	園田 孝夫・大川 順正	993

Editor: Prof. Osamu YOSHIDA, M. D.

Department of Urology, Faculty of Medicine,
Kyoto University, Kyoto Japan 606
京都大学医学部泌尿器科学教室

購読要項 (1983年1月改訂)

1. 発行は毎月、年12回とし、年間購読者を会員とする。
2. 会員は年間予約購読料6,000円(送料とも)を前納する。払込みは振替に限る。口座番号 京都5-4772番 泌尿器科紀要編集部宛。
3. 入会は氏名、住所を記入のうえ編集部あて、はがきにて申し込めば所定の用紙を送付します。

投稿規定 (1983年8月改訂)

1. 投稿：連名者を含めて会員に限る。
2. 原稿：泌尿器科学領域の全般にわたり、総説、原著、症例報告、そのほかで和文または英文とする。
 - (1) 普通論文の長さは、原則として、刷上り本文7頁(400字×28枚程度)図(Fig)10枚、表(Table)5枚までとする。
 - (2) 和文原稿はB5版400字詰原稿用紙横書き、楷書、当用漢字、現代かなづかい、平がなとし、清書する。文中欧語の固有名詞は大文字で、普通名詞は小文字で始め、タイプし、年号は西暦とする。
 - (イ) 原稿の表紙に標題、著者名、所属機関名の順に和文、英文で併記する。下段に筆頭著者名(山田 または 山田・ほか:)と、2語(例:前立腺がん・PSAP)からなる running title および5語(英文)以内の key words を付す。
 - (ロ) 英文抄録:ダブルスペースでタイプし、その和訳をつける。
 - (3) 英文原稿はダブルスペースでタイプし、原稿の表紙に標題、著者名、所属機関名、key words (和文に準ず)、running title (和文に準ず)の順にタイプし、別に標題、著者名、所属機関名、抄録の順に記した和文抄録を付す。
 - (4) 数字はすべて算用数字を使用し、単位 m, cm, mm, l, ml, kg, g, mg, μ g, %, °C, pH などとする。
 - (5) 図、表、写真などはすべて別紙とし、写真はトリミングする。説明文は一括して記載し和文、英文を問わず Table 1., Fig. 2. などとする。英文が望ましい。原稿右欄外に挿入さるべき位置を明示する。とくに図・表は必ずタイプまたは楷書で清書し、誤りのないことを確認する。とくに、著者校正時、表中の数字の訂正をされないように願います。様式については本誌の図・表を参照する。
- (6) 引用文献は必要最小限にとどめ、引用箇所を本文中に入れる。その数は30までが望ましい。和文は楷書で、欧文はタイプする。
(例:山田^{1,3,7)}, 田中^{1,3-10)}によると)
雑誌の場合—著者名(全員):題名、雑誌名
巻:最初頁~最終頁、発行年
単行本の場合—著者名(全員):題名、書名、編集者名、版数、巻数、引用頁、発行所、出版地、発行年
- (7) 原稿を返却しないのでコピーを手元に残しオリジナルを書留で〒606 京都市左京区聖護院川原町54 京大病院泌尿器科紀要編集部宛送付する。
- (8) 投稿原稿は編集委員会においてその採否を決定し、それによって編集部は原稿の訂正、書き直しまたは返却を指定する権限を保持する。
- (9) 校正は初校を著者による責任校正とし、再校以降は編集部がおこなう。著者複数の場合校正責任者を投稿時指定する。

3. 掲載

- (1) 論文の掲載は採用順とする。迅速掲載には迅速掲載料を要する。
- (2) 紙代、印刷費および最初1頁の組版費は編集部で負担する。残額を実費負担とし、請求は論文掲載誌発行後におこなう。論文の長さが超過した場合、超過料を別途に申し受ける。
- (3) 薬剤の効果、測定試薬の成績、治療機具の使用などにかんする研究論文については、掲載料を別途に申し受ける。

4. 別刷

実費負担とし、著者校正時に部数を指定する。

宮崎 重 新谷 浩
吉田 修(主 幹)